

2013年3月期 第2四半期決算説明会

2012年11月2日

株式会社日清製粉グループ本社

大枝でございます。本日はお忙しい中、決算説明会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。資料の説明をする前に一言お話しさせていただきます。

私は昨年4月にグループ本社の社長に就任し、2020年までの9年間という長いスパンの中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」を策定し、本年4月からスタートしました。また、本年4月から日清製粉株式会社の社長を兼務するようになりました。現在、私が最優先で取り組んでいる課題、テーマについてご説明させていただきます。

日清製粉については、二つの課題に取り組んでいます。一つは収益の建て直しであり、特に営業力のでこ入れ、強化に最大限注力しています。営業全員がお客様の方を向いて積極的にお客様を訪問し、提案を行っていくよう徹底しています。また、私自身のトップセールスを含めて、今上期に行った種蒔きの成果が今下期、来年以降に成果として出てくると確信しております。二つ目は、いずれ迎える原料の自由化を想定し、海外からの輸入品に対抗できるコスト競争力強化に取り組んでいます。今年5月に福岡新工場建設に着工しましたが、スピードを上げてコスト削減施策を進めていきます。

グループ本社の社長としては、中期経営計画の柱となっています国内、海外のM&A・業務提携に向けた取り組みを進めています。専任組織を設置し、その人員を強化するためのキャリア採用も積極的に行っており、外国人の活用も含め施策を進めています。

目 次

1. 2013年3月期 第2四半期(累計)実績
2. 2013年3月期 通期見通し
3. 中期経営計画「NNI-120」(2012～2014年度施策)
の具体的成果

2013年3月期 第2四半期(累計)実績

第2四半期(累計)実績

健康と信頼をお届けする



Miller Milling社買収効果もあり売上は**前年比103.4%**
 食品事業における拡売費増加等により営業利益は**前年比95.1%**
 四半期純利益は**前年比102.3%**

(単位:百万円)

	2013年3月期 2Q累計実績	業績見通し		前年	
		見通し	見通し比	前年実績	前年比
売上高	221,797	224,600	98.8%	214,587	103.4%
営業利益	9,912	10,600	93.5%	10,421	95.1%
経常利益	11,468	11,900	96.4%	11,892	96.4%
四半期純利益	6,833	7,100	96.3%	6,677	102.3%

3

それでは資料に基づいて説明をさせていただきます。

第2四半期の実績につきましては、増収減益となりました。

売上高は前年比103.4%、営業利益は前年比95.1%となりました。

第2四半期(累計)実績(セグメント別)

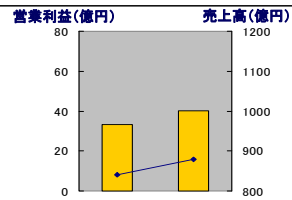
健康と信頼をお届けする



◆ : 売上高 ■ : 営業利益

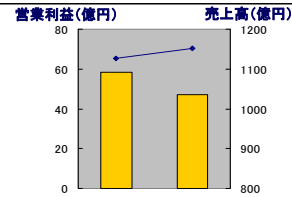
＜売上高及び営業利益の前年差主要因＞

製粉



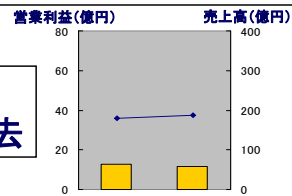
- ・売上: 国内の小麦粉出荷は前年を下回ったが、**Miller Milling社の買収効果**もあり38億円増加
- ・利益: **コストダウン**及び**ふすま価格の比較的堅調な推移**等により7億円増加

食品



- ・売上: **加工食品、酵母・バイオ、健康食品**それぞれが**増加**し、24億円増加
- ・利益: 加工食品の**拡販費用の増加**等により▲11億円減少

その他 全社・消去



- ・売上: **エンジニアリング事業の好調**により10億円増加
- ・利益: **ペットフードの販売条件悪化**等により▲1億円減少

セグメント別では、
製粉セグメントは増収増益となりました。
食品セグメントは増収にはなりましたが、拡販費の増大等もあり、減益となりました。

製粉事業における上期の取組み

- ・ トップライン拡大施策を最優先施策とし、拡販に努めたが、国内小麦粉市場が縮小する厳しい市場環境下、出荷は前年を下回った
- ・ 一方、コストダウン施策の効果もあり、製粉セグメントの営業利益は増益
- ・ 今年3月に買収したMiller Milling社については、経営体制の移行、業績とも順調に推移

製粉事業の上期の取組みについてご説明いたします。

製粉事業におきましては、売上高の拡大を最優先に取り組みましたが、出荷は前年を下回る結果となりました。

一方でコストダウンの効果があり、営業利益は増益となりました。

食品事業における上期の取組み

- ・ 重点的に拡販を図っている**冷凍食品**及び**中食・惣菜**は**前年を大幅に上回る**出荷を達成
- ・ デフレの影響及びPBを含む**廉価品の拡大**により市場環境が一層厳しくなる中、主力のパスタ、天ぷら粉等で**シェアアップ**実現
- ・ 加工食品の**拡売費**増加等により食品セグメントは**減益**

次に食品事業についてです。

出荷は、冷凍食品、中食・惣菜が前年を大幅に上回りましたが、一方で拡売費の増加があり、減益となりました。

2013年3月期 通期見通し

続きまして、通期の見通しについてご説明いたします。

2013年3月期 通期見通し

健康と信頼をお届けする



下期のトップライン拡大、Miller Milling社買収効果により
増収見込み
 コストダウンの実施及びふすま市況の回復等を見込み
通期利益見通しを据え置き

(百万円)

	2013年3月 見通し	2012年3月 実績	前年差	前年比 (%)
売上高	459,100	441,963	+17,136	103.9%
営業利益	23,500	23,113	+386	101.7%
経常利益	26,300	26,132	+167	100.6%
当期純利益	14,600	13,326	+1,273	109.6%

8

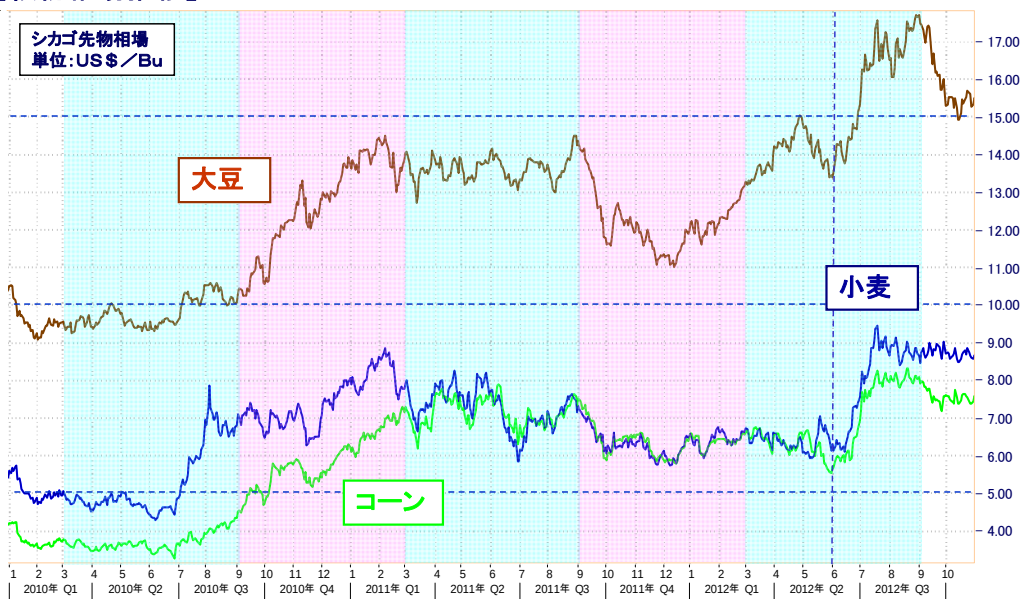
通期の見通しは、当初の見通しを据置かせていただき、売上高 前年比103.9%、
 営業利益 前年比101.7%の増収増益の見通しになります。

穀物相場の状況

健康と信頼をお届けする



【穀物相場推移】



注) グラフは、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

続きまして、穀物相場の状況を簡単にご報告申し上げます。

大豆、コーン、小麦のいずれの相場も、6月から上昇を開始し、現在高止まりしている状況です。

2011年以降、コーンと大豆の**世界在庫レベル**が**低水準**で推移していたところ、本年米国で**56年ぶり**と言われる**大旱魃**が発生

世界の**小麦在庫**は**潤沢**で、今年の**作柄**も世界的に**良好**だがコーンと大豆につられて**小麦相場も高騰**



- ・ 本年6～8月に**小麦相場は高騰**
- ・ 本年10月より **輸入小麦の政府売渡価格は平均3%引上げ**
(ハード・セミハード系0%、ソフト系8%)
- ・ 当社は12月20日からの**小麦粉価格改定を発表**

コーンと大豆につきましては、元々の世界在庫レベルが低かったところに、アメリカで56年ぶりと言われる大干ばつが発生し、相場が高騰しました。

一方で小麦につきましては、世界的在庫は潤沢で、さらに今年の作柄も世界的に概ね良好ですが、コーンと大豆の相場高騰につられるかたちで、6月以降、小麦相場も高騰しました。

結果としまして、10月1日から、輸入小麦の政府売渡麦価が5銘柄平均で3%の引上げとなりました。パンやラーメンに使用されますハード・セミハード系が0%、菓子やうどん用に使用されますソフト系が8%の値上げです。

この改定を受けまして、当社は12月20日からの小麦粉価格の値上げを発表させていただきます。

< 今後の国際小麦相場見通し >

上昇要因

- ・ **西豪州の降雨量**が例年を下回って推移しており、小麦の**作柄悪化懸念**
- ・ **ウクライナ**を始め**ロシア**等小麦主要生産国で**禁輸**（輸出関税含む）の**懸念**
- ・ 小麦⇒大豆、コーンへ**作付けがシフト**する見込み

下落要因

- ・ 穀物相場からの**投機資金撤退**による相場沈静化
- ・ **南米**等の穀物生産国でのコーン等の**良好な作柄**見込み
- ・ 穀物消費量の減少による**需給緩和**（バイオ燃料向け等）

2013年4月の輸入小麦政府売渡価格に影響

11

小麦相場の今後の見通しにつきまして、上昇要因、下落要因をそれぞれ簡単にまとめさせていただきました。

上昇要因としては、西オーストラリアの降雨量が少ないことによる作柄の悪化懸念、ウクライナ・ロシアの作柄があまりよくなく、国内優先で輸出を禁止するのではないかという懸念、また、小麦に比べ大豆、コーンの相場が上がったことにより、小麦の作付けが減るのではないかという懸念があります。

一方で、下落要因につきましては、穀物相場から投資資金が撤退気味であるということ、南米のトウモロコシ、大豆の作柄が良好であること、穀物の価格上昇により、バイオ燃料等への使用が減るのではないかとということが下落要因として想定されています。

以上のような上昇要因、下落要因がある中で、次回は来年の4月に輸入小麦の政府売渡価格が改定されますが、6ヶ月間の算定期間の内の2ヶ月（9、10月）が経過した時点では、5～6%の値上げという状況で推移しています。

＜製粉事業の取組み＞

- ・ 以前より取り組んできた**差別性のある製品提案等の『価値営業』**により**拡販を図る**
- ・ **コストダウン、ふすま市況改善**により**対前年増益を見込む**

＜食品事業の取組み＞

- ・ **新製品の投入及びコストダウン**により**収益改善を図る**
- ・ **日清製粉プレミックス㈱を設立し、プレミックス事業を強化**
- ・ **EPA-E(エイコサペンタエン酸のエチルエステル)の販売等、各施策を着実に実行**
- ・ 本年2月に稼働した**オリエンタル酵母工業の富里総菜新工場**を活用し、**拡販を図る**

12

続きまして、通期の取組み内容をご説明させていただきます。

製粉事業につきましては、「価値営業」により営業の強化を図っていきます。併せてコストダウンも図っていきます。

食品事業につきましては、新製品投入等による売上げ拡大とコストダウンを図っていきます。

日清製粉プレミックス㈱、「EPA-E」、オリエンタル酵母工業の総菜工場につきましては、後ほど、ご説明させていただきます。

中期経営計画「NNI－120」 （2012～2014年度施策） の具体的成果

次に、中期経営計画「NNI－120」の現時点での具体的成果につきまして、ご説明させていただきます。

中期経営計画施策の具体的成果

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

福岡新工場建設に着工

- ◆ 設備投資額: 約100億円
- ◆ 工場能力
 - ・ 1日当り小麦挽砕能力550トン(2ライン)
 - ・ 小麦粉サイロ収容力5,000トン
 - ・ 立体自動倉庫収容力21万袋(5,250トン)
- ◆ 本年5月着工、2014年2月完工
- ◆ 「ローコスト体制」と「安全・安心、安定品質の製品製造」の両立
- ◆ 2014年2月新工場稼働
⇒ 鳥栖・筑後工場の閉鎖による生産集約により生産性向上



(製粉福岡新工場の工事風景:2012年10月)



(製粉福岡新工場の完成予想図)

14

まずは、福岡の製粉の新工場についてですが、今年の5月に着工をしました。投資額は約100億円で、2014年2月の完成を予定しています。完成した時点で現在稼働しております鳥栖、筑後工場の内陸の工場を閉鎖して、生産性向上を図っていきます。

ミックスビジネスの再構築

1. 日清製粉プレミックス㈱を本年10月1日に設立
資本 : 資本金4億円
(出資割合 日清フーズ80%、日清製粉20%)
事業内容: **業務用プレミックスの製造・販売**
2. 設立の目的
 - ◆ **グローバル・カンパニーとして、事業戦略策定から開発・生産・販売まで一体で実行することで事業推進力強化**
 - ◆ **技術開発力の高度化と人材育成**
 - ◆ **国内外での営業における顧客対応力・競争力強化**

**プレミックス
事業の拡大の
スピードアップ**

15

次に、ミックスビジネスの再構築についてです。

10月1日に日清製粉プレミックス㈱を設立しました。新会社は、業務用プレミックス事業におきまして、開発・生産・販売の全てを一貫して行っていきます。併せて、タイと中国にあるプレミックスの海外2社についても、新会社が一元的に管理していきます。この新会社設立の最大の目的は、技術開発力の高度化です。プレミックスの販売は技術力が重要で、当社のノウハウを生かした技術的開発力、そしてその技術的開発力を持った人材の育成がポイントとなります。新会社でプレミックス事業を専任化することで開発力強化と人材育成を図っていきます。

オリエンタル酵母工業㈱ 総菜新工場稼働

本年2月 富里総菜新工場(千葉県)稼働

- ◆ **製造能力倍増(400t/月 ⇒ 800t/月)**
及び**生産性向上**による**拡販体制強化**
- ◆ **新設備(高温クッカー等)を活用し、**
新製品の開発強化
- ◆ **ビガーマーケット(ベーカリー市場**
以外)向け製品群の充実による
拡販強化
- ◆ **安全・安心な製品の提供**



(オリエンタル酵母工業富里工場外観)



(富里工場連続殺菌ライン)

続きまして、オリエンタル酵母工業の総菜新工場です。

オリエンタル酵母工業は、本年2月から総菜新工場を稼働させています。新工場により生産能力が倍増し、最新鋭の設備等の導入で開発力の強化も図っています。

日清ファルマの医薬品原薬事業の拡大

【新規医薬品原薬の販売開始】

- ◆ 原薬名 : **EPA-E**(エイコサペンタエン酸のエチルエステル)
- ◆ 販売先 : **Amarin Pharma, Inc.**(米国の医薬品企業)
- ◆ Amarin社の新薬名 : **Vascepa™**(米国で販売される医薬品名)
- ◆ Vascepa™の効能 : **高脂血症(高トリグリセリド(TG)血症)の治療薬**
 - ・ Amarin社は米国FDAより現地2012年7月26日に**米国における Vascepa™の販売承認取得**(新薬は2013年1月販売開始予定)
今年度の当社のEPA-E売上見込みは**約20億円**
 - ・ FDAの承認は血中TG値が500mg/dL以上の比較的重症な患者(米国でこの範疇に入る**患者数は推定約400万人**)が対象
 - ・ Vascepa™ は主要な既存薬(米国での売上高800億円)に対して**LDL(悪玉)コレステロールを増加させない**という優位性を有する

17

続きまして、日清ファルマの新規医薬品原薬の販売につきましてご説明します。

日清ファルマはアメリカの医薬品企業であるアマリン社に、原薬名「EPA-E」の販売を開始しました。

(アマリン社が販売する)新薬名は、「Vascepa™」で、高脂血症の治療薬になります。アマリン社は本年7月にアメリカにおける販売の承認を取得して、来年1月から販売を開始します。当社は、アマリン社に対して、既に原薬「EPA-E」の出荷を開始しており、初年度の売上は約20億円を見込んでいます。来年度以降は更にこれに上乗せできると見えています。

Miller Milling 社の状況

- ◆ **新経営体制に順調に移行(PMI)**
(日清製粉より社長、副社長、設備技術者、製パン技術者を含むマネジメントチームを現地に派遣)
- ◆ 既に**製パン技術支援サービス**を展開、顧客には好意的に受け止められ、**顧客との関係強化**が図れている
- ◆ 現在**能力増強**工事を行っており、2013年1月完成・稼働予定

	現 在		増能力後
Winchester工場	1,190トン/日		1,640トン/日 (+450トン)
Fresno工場	535トン/日		595トン/日 (+ 60トン)
合 計	1,725トン/日		2,235トン/日 (+510トン)

次にMiller Milling社についてです。

同社は、本年3月に買収しましたアメリカで第9位の製粉会社です。

買収した時点で既に生産能力がいっぱいになっておりましたので、早速、約30% (1日約510t) の能力増強工事に着手しました。来年の1月の完成予定で、能力増強が完成した段階で、さらに販売を拡大していきます。

各社の海外新規取り組み及び海外での能力増強

- ◆ 日清STC製粉: **約2割の設備能力増強実施中**
本年12月完成・稼働予定

- ◆ オリエンタル酵母工業
 - ・本年1月に設立した**インド**現地法人において、**バイオ製品(診断薬原料等)の拡販推進**
 - ・本年1月に設立した**シンガポール**駐在事務所を活用し、**東南アジア食品市場の開拓・調査推進**

- ◆ NBCメッシュテック
 - インドネシア工場の製造能力倍増(投資額5億円)工事中**
 - 本年12月完成予定**
 - 生産コスト低減 + アセアン・中国向け輸出競争力強化**

その他の当社グループ各社の海外の取り組みについてご説明します。

日清STC製粉は約20%の能力増強を実施しており、今年中に完成します。

オリエンタル酵母工業はインド、シンガポールに現地法人あるいは駐在事務所を設置して、海外活動を展開しております。

NBCメッシュテックにつきましては、インドネシアの既存の工場の能力倍増工事を年内に完成させる予定です。

中期経営計画施策の具体的成果

健康と信頼をお届けする

 日清製粉グループ

製粉ミュージアム 完成・オープン

- ◆ 本年11月12日(月)に当社創業の地である群馬県館林市に世界的にも貴重な製粉(小麦・小麦粉)をテーマにした企業ミュージアムをオープン
- ◆ 館林市において観光資源や教育資産として寄与する
- ◆ ミュージアムは、当社の歴史と伝統を語り継ぐ本館と製粉に関する様々な情報を紹介する新館、並びに気軽な憩いの場である日本庭園で構成



製粉ミュージアムの全景



本館:明治創業時代の歴史的価値の高い洋風建築物

20

最後になりますが、当社は「製粉ミュージアム」を当社発祥の地であります群馬県館林にオープンし、当社の歴史と製粉関係の様々な情報を発信していきます。皆様方も是非お時間がありましたらご見学に来ていただければと存じます。

以上で私の説明を終わらせていただきます。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。